

「後世に伝えたい ハンセン病の歴史」

# 事業実施報告書

2022(令和4)年3月



(撮影：写真家 西 岳海)

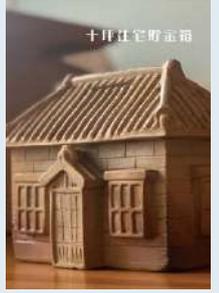


Hansen's Disease Sanatoria  
WORLD HERITAGE PROMOTION COUNCIL

特定非営利活動法人  
ハンセン病療養所世界遺産登録  
推進協議会

この報告書は、2つの国立ハンセン病療養所が所在する岡山県瀬戸内市が令和元年度に実施したふるさと納税「後世に伝えたい ハンセン病の歴史」でご寄附いただいた資金を財源として、令和3年度にNPO法人ハンセン病療養所世界遺産登録推進協議会が実施した事業を寄附者の皆様へご報告するものです。ご寄附いただいた皆様には、改めて厚くお礼申し上げます。写真モデルは長島愛生園入所者自治会長の中尾伸治（87）さん。撮影場所は長島愛生園「旧収容所（回春寮）」（国登録有形文化財）です。長島愛生園に収容されたハンセン病患者はこの収容所で数日を過ごした後に、病状や年齢・性別により園内の寮舎が割り当てられました。写真は1948（昭和23）年に14歳で収容された中尾少年が収容所内で過ごした地点から撮影したものです。時を経てこそ忘れてはならない大切な記憶を私たちは未来につなげます。

# 岡山県瀬戸内市ふるさと納税型クラウド・ファンディング 「後世に伝えたい ハンセン病の歴史」事業 経過



**2019.11**  
「十坪住宅ペーパークラフト」作成  
親子向けを想定した仕様  
長島愛生園内 喫茶さざなみハウスに常設

**2019.5.9**

**クラウド・ファンディング開始**  
ユネスコ「世界の記憶」登録を目指した事業  
を実施する目的で開始。目標額300万円。  
10万円以上の寄附への返礼品として企画した  
長島愛生園 陶製「十坪住宅貯金箱」  
リバイバル版と併せて報道発表。

**2019.12.10**

ハンセン病の史料保存へ、ふるさと納税活用も苦戦  
(朝日新聞岡山地方版)

**2019.12.31**

**クラウド・ファンディング終了**

目標額達成(寄附総額3,365,338円、寄附者合計107名)  
「十坪住宅貯金箱」リバイバル版11個送付)  
(写真)大晦日に長島愛生園納骨堂北側にかかった虹

寄附額が185万円にとどまり、残り半月での目標達成に向けた  
苦境が報道される

**2021.1**

**事業計画策定**

長島愛生園、邑久光明園それぞれの入所者自治会及び学芸員と  
の打ち合わせ

**2021.4**

**事業開始**

瀬戸内市から寄附総額から返礼品経費等を除いた  
312万円を補助総額とする通知受領  
NPO理事会が以下を内容とする事業実施を承認  
(愛生園) 所蔵史資料脱酸性化处理及び  
その他の保存処置事業  
(光明園) 社会交流会館にて視聴可能な入所者  
証言映像24本への英語字幕挿入事業

**2021.5**

(光明園)

NPO事務局にて入所者証言映像24本(合計約1時間18分)に挿  
入されている日本語字幕(約2万字)をテキスト化。英語翻訳  
用に校正。



**2021.6**

(光明園)

ネイティブ翻訳家へ英語翻訳を依頼

**2021.7**

(愛生園)



専門業者による処理予定史資料の現状調査

**2021.9**

(愛生園)

専門業者工場へ処理対象史資料251点を配送

**2021.10**

(光明園)

ネイティブ翻訳家による英語翻訳データ完成

**2022.1**

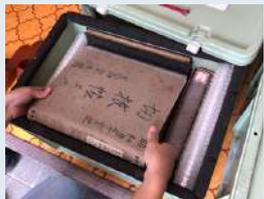
(愛生園)

専門業者から処理済史資料251点を受領

**2022.1**

(光明園)

英語字幕データ完成



**2022.2**

(愛生園)

脱酸性化处理等の確認及び撮影  
歴史館学芸員による処理済史資料の整理・保管

**2022.3**

(光明園)

英語字幕データを社会交流会館のモニターに実装

**2022.3**

**事業完了**

NPO事務局にて事業報告書を作成  
瀬戸内市から寄附者の皆様へ郵送



## 事業収支内訳書

支出		収入	
内訳	金額（円）	内訳	金額（円）
（愛生園）所蔵史資料脱酸性化処理及びその他の保存処置事業 ・脱酸性化処理を実施する上で必要な保存処置の実施費用 ・脱酸性化処理費用 ・長島愛生園⇄処理工場 送料（特定信書便） ※脱酸性化処理251件・総重量73.4KG、内保存処置131件			
	1,750,498	瀬戸内市補助金 （ふるさと納税）	3,120,000
（光明園）社会交流会館にて視聴可能な入所者証言映像24本への英語字幕挿入事業 ・ネイティブ翻訳家へ英語翻訳費用（日本語約2万字） ・英語字幕データ作成費用 ・英語字幕データの社会交流会館モニターへの実装及びタッチパネル仕様変更費用 ※証言映像24本合計約1時間18分			
	1,342,000	NPO自主財源	1,918
事業実施報告書印刷（A4フルカラー8P、400部）及び郵送費用	29,420		
合計	3,121,918	合計	3,121,918

## 国立療養所長島愛生園 所蔵史資料脱酸性化処理及びその他の保存処置事業

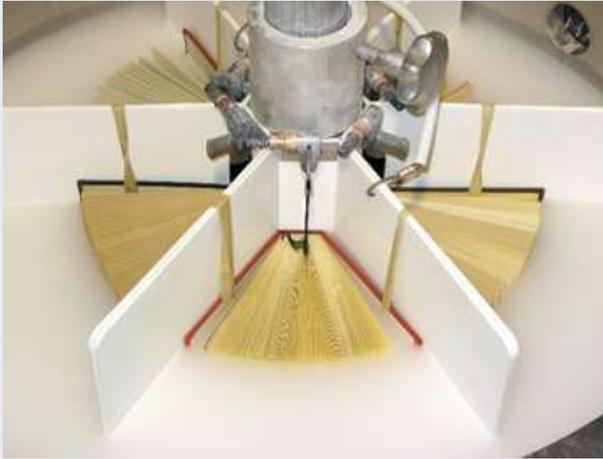
### 処理物件一覧

保存場所	史資料名	作成時期	脱酸性化処理 （簿冊・枚）数	内、簡易補修 実施数
歴史館仮収蔵庫	保管文書	1931年～1962年	42	34
神谷書庫	長島愛生園機関誌「愛生」	1931年～1944年	17	17
	長島愛生園盲人会「点字愛生」	1962年～1982年	7	0
	長島愛生園盲人会「点字愛生」（墨字版）	1958年～1964年	12	5
	愛生年報（昭和6年～昭和33年）	1931年～1958年	8	4
	長島愛生園創立記念誌（30周年・40周年）	1960年/1970年	2	2
	長島紀要NO.1～NO.15	1954年～1967年	4	4
	厚生省監修 らい文献目録（社会編・医学編）	1957年	2	1
	長島気象・風・雨・海陸風	1938年～1962年	1	1
	長島気象二十年報 長島愛生園気象観測所報告書（昭和13年～昭和32年）	1959年	1	1
	新聞切り抜き綴	1934年～1952年	7	7
愛生編集部	長島愛生園生活文化研究会/日本共産党愛生細胞「らしんばん」NO.1～NO.120	1953年～1976年	120	53
	らい詩人集団「らい」NO.1～NO.25	1964年～1980年	25	0
	明石海人「白描」（初版）	1939年	1	1
	明石海人「海人遺稿」（初版）	1939年	1	0
	長島愛生園創立記念誌（20周年）	1950年	1	1
	合計		251	131

## 脱酸性化処理(写真撮影：キハラ株式会社)

日本国内では明治20年代から酸性紙(木材パルプ)の生産が活発化しました。酸性紙は内在する酸により徐々に劣化し、場合によっては紙が粉砕するまで脆弱化します。酸性紙に代わる中性紙が広く普及したのは1980年代からといわれます。今回、酸性紙で構成される長島愛生園所蔵史資料に対して酸化マグネシウムの微粒子をしみ込ませ、時間とともに空気中の水分と反応して水酸化マグネシウムへと変化し、紙の中の酸をゆっくりと中和させることで紙の寿命を何も処理しない場合と比べて3倍~5倍に延長させる効果が確認されている脱酸性化処理を実施しました。

※脱酸性化処理は、紙の今後の劣化を低減させる予防的措置です。一度失われた紙の性能を回復させるものではありません。



脱酸性化処理の様子

## 簡易補修(写真撮影：キハラ株式会社)

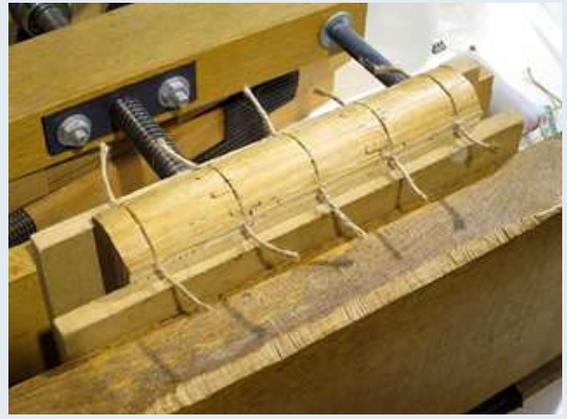
今回は脱酸性化処理を行う前に、安全に処理ができる程度までに紙資料の状態を回復させ、同時に処理後の利用の際にリスクとなるような比較的大きな損傷部分を補強することを内容とした必要最小限の簡易補修を実施しました。具体的な簡易補修の内容の一部は、以下のとおりです。



破れを和紙と正麩糊で繕い



折れをフラットニングし、破れと欠損部分を和紙と正麩糊で繕い



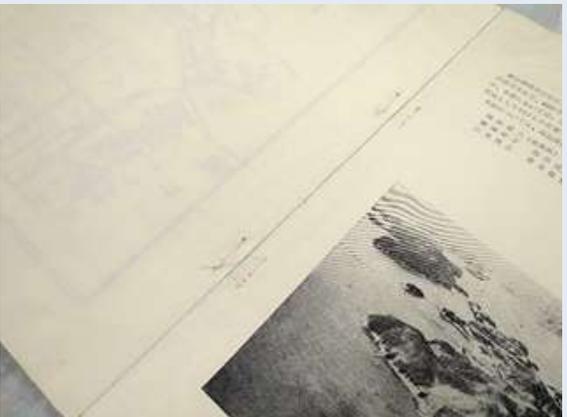
製本構造の破損 ⇒ ホチキスを除去し、表紙を取り外す。背に溝を切り、麻紐を接着（次の写真に続く）



背に寒冷紗、クータを貼付し、表紙を貼り戻す



背表紙を地券紙とクロス、中性ボンドで繕い

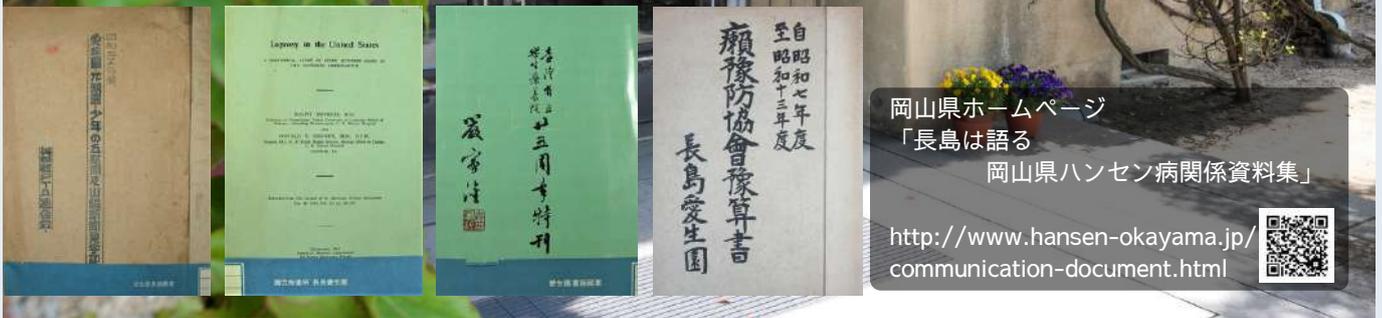


腐食したホチキスを除去し、麻糸で綴じ直し

## 歴史館仮収蔵庫保管文書

長島愛生園が1930（昭和5）年にこの地で開園して以来、ハンセン病療養所として運用されてきた変遷を示す文書や、「らい文献目録」に掲載されている一次資料により構成される歴史的記録物です。これらの文書の一部は岡山県が編集した「長島は語る」に掲載されており、岡山県ホームページで閲覧できます。

これらの中には日本のみならずアメリカや東アジアのハンセン病医療行政で何が行われたかが理解できる資料も含まれており、長島愛生園を中心とした文書と情報のやりとりを理解することもできます。感染症であるハンセン病を患ったことで偏見・差別を受け、療養所に収容された人々の生きてきた証の資料は、私たちがこれからも起こり得る感染症による偏見と差別を無くすために受け継ぐべき歴史的な重要性を有する文書です。



岡山県ホームページ  
「長島は語る」  
岡山県ハンセン病関係資料集

<http://www.hansen-okayama.jp/communication-document.html>

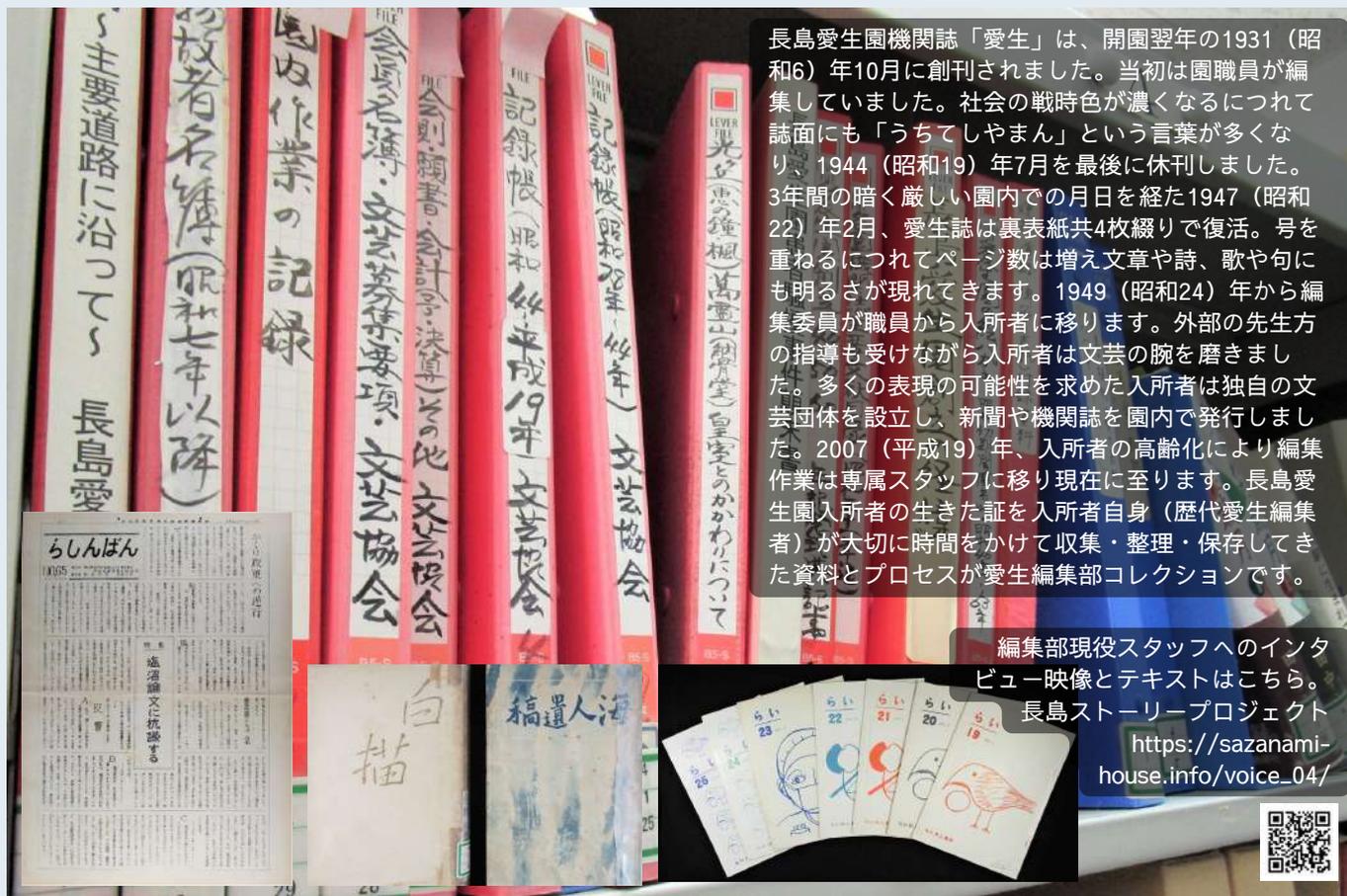


## 神谷書庫コレクション



長島愛生園精神科医長を勤められた神谷美恵子医師（1914-1979）ご逝去に寄せられたご弔慰金は、ご遺族のご厚意により長島愛生園に贈られました。長島愛生園関係者が協議し、神谷医師の業績を偲ぶべく1981（昭和56）年に建設された鉄筋コンクリート造平屋建24.3㎡の建物が神谷書庫です。建設当時から神谷医師の著書や関りのある書籍に加えて、愛生園内で発刊された文芸誌や各種団体の刊行物が収集・保存されています。国内（一部海外を含む）のハンセン病療養所の機関誌の多くも創刊号から現在に至るまで収集・保存されており、その量は国立ハンセン病資料館（東京都東村山市）に劣らないとされます。

南に瀬戸内海を望むこの丘陵地に神谷書庫が建設される以前は、民間寄附で建設された十坪住宅第一号の慈岡寮が建ち、周辺は「愛生銀座」と呼ばれるほど往時は賑わったそうです。長島愛生園の歴史が刻まれた地で、今日も神谷書庫は大切な資料を守り続けます。



長島愛生園機関誌「愛生」は、開園翌年の1931（昭和6）年10月に創刊されました。当初は園職員が編集していました。社会の戦時色が濃くなるにつれて誌面にも「うちてしまん」という言葉が多くなり、1944（昭和19）年7月を最後に休刊しました。3年間の暗く厳しい園内での月日を経た1947（昭和22）年2月、愛生誌は裏表紙共4枚綴りで復活。号を重ねるにつれてページ数は増え文章や詩、歌や句にも明るさが現れてきます。1949（昭和24）年から編集委員が職員から入所者に移ります。外部の先生方の指導も受けながら入所者は文芸の腕を磨きました。多くの表現の可能性を求めた入所者は独自の文芸団体を設立し、新聞や機関誌を園内で発行しました。2007（平成19）年、入所者の高齢化により編集作業は専属スタッフに移り現在に至ります。長島愛生園入所者の生きた証を入所者自身（歴代愛生編集者）が大切に時間をかけて収集・整理・保存してきた資料とプロセスが愛生編集部コレクションです。

編集部現役スタッフへのインタビュー映像とテキストはこちら。  
長島ストーリープロジェクト  
[https://sazanami-house.info/voice\\_04/](https://sazanami-house.info/voice_04/)



## 国立療養所邑久光明園

### 入所者証言映像24本（合計約1時間18分）への英語字幕挿入事業



邑久光明園内の社会交流会館にて視聴可能な入所者証言映像24本の映像（2008年頃収録）をNPOでお借りして、既に挿入されている日本語字幕合計約2万字をテキスト化し、ネイティブ翻訳家に英語翻訳を依頼しました。翻訳完成後に英語字幕を挿入した映像データを作成し、社会交流会館のモニターで視聴できるよう実装しました。併せて日本語と英語を選べるようにタッチパネルの一部仕様を変更しました。

24本の映像には個人情報が多く含まれているためこの場でのご紹介はできませんが、コロナ禍が明けた後には海外の方を含め多くの皆様にご覧いただけることを期待します。

